

1. 当該診療科の特徴	<p>日本神経学会専門医教育施設 日本脳卒中学会専門医教育施設</p> <p>神経疾患全般に渡り診療を行っている。特に、救命センターを舞台とした脳卒中をはじめとする神経救急疾患が中心である。脳神経内科の入院患者は年間約600人、脳血管障害が8割を占める。tPA件数は年間約30人。その他、進行性脳梗塞や夜間血圧の研究を行っている。</p>															
2. プログラムの特徴	<p>神経疾患全般の教育</p> <p>脳卒中、パーキンソン病、認知症、てんかん、脊髄疾患、髄膜炎・脳炎、脊髄小脳変性症、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性神経炎をはじめ各種末梢神経疾患など、多彩な神経疾患の診療をとおして、神経学的所見のとり方、病歴聴取のコツ、CT/MRIの読影、頸動脈超音波、経食道エコー、脳血管撮影、脳血流シンチ、神経伝導速度、筋電図、脳波、などの検査に対する習熟を目指す。</p> <p>内科系各診療科、脳外科、整形外科、耳鼻科、眼科などの診療科との密な関係をとおして、患者診療全般を会得する、総合的なプログラムを個々の要請に応じて柔軟に組んでいる。</p>															
3. 到達目標	<p>内科全般の知識をしっかりと持ち、脳神経系の臨床に総合的に対応できる力量を備える。</p> <p>特に、神経救急疾患に対して、鑑別疾患を考慮しながら最終診断に至ることのできる力をつける。</p> <p>各種、画像、神経生理検査を駆使して、診断精度を高める方法を学ぶ。</p> <p>tPA治療をはじめとする、急性期抗血栓療法の実習、脳卒中二次予防としての、抗血栓療法、降圧療法、糖尿病治療、慢性腎臓病管理、脂質代謝管理なども習熟する。</p> <p>また、大量ガンマグロブリンや、パルス療法、インターフェロン療法などの神経内科特有の治療にも取り組む。</p> <p>看護師、リハビリ師と協力し、患者の自立を促進して、家族との関係も考慮して総合的に、社会復帰を行えるようQOLを高める。</p> <p>臨床例報告から、臨床研究まで、当科のデータベースを使用して、研究発表、論文作成を行う。</p>															
4. 研修期間																
5. 取得が可能な資格等	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="426 1200 762 1234">学会名</th> <th data-bbox="762 1200 1469 1234">取得可能資格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="426 1234 762 1267">日本内科学会</td> <td data-bbox="762 1234 1469 1267">日本内科学会認定内科医</td> </tr> <tr> <td data-bbox="426 1267 762 1301">日本神経学会</td> <td data-bbox="762 1267 1469 1301">日本神経学会専門医</td> </tr> <tr> <td data-bbox="426 1301 762 1335">日本脳卒中学会</td> <td data-bbox="762 1301 1469 1335">日本脳卒中学会専門医</td> </tr> <tr> <td data-bbox="426 1335 762 1368"></td> <td data-bbox="762 1335 1469 1368"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="426 1368 762 1402"></td> <td data-bbox="762 1368 1469 1402"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="426 1402 762 1435"></td> <td data-bbox="762 1402 1469 1435"></td> </tr> </tbody> </table>	学会名	取得可能資格	日本内科学会	日本内科学会認定内科医	日本神経学会	日本神経学会専門医	日本脳卒中学会	日本脳卒中学会専門医							
学会名	取得可能資格															
日本内科学会	日本内科学会認定内科医															
日本神経学会	日本神経学会専門医															
日本脳卒中学会	日本脳卒中学会専門医															
6. 指導体制	<p>スタッフがマンツーマンで指導を行う。ベッドサイド、救急外来の診療を共に行い、また、独立して主治医となり、スタッフ、部長の指示を常時求めることができる。</p> <p>各種検査もオーバードクターとともにを行い、独立して行えるよう指導する。</p> <p>内科、脳神経外科などとの定期的カンファレンス、また、院外の施設との共同勉強会の機会も多く、多様な刺激のもとで学習させる。</p> <p>当科は、研究発表、論文作成の業績も高く、これらの点で、若手医師への指導も定評がある。</p>															
7. その他	<p>○後期研修医の勤務状況等</p> <p>現状は、かなりの患者数(5~10)を絶えず受け持ち、オーバードクターの意見を絶えず取り入れdiscussionを行いながら診療を進めている。</p> <p>学会発表、論文作成に熱心な後期研修医もいる。</p> <p>後期研修2~3年で、ほぼ独立して神経疾患に対処できるようになり、その後は、専門医試験を目指す。</p> <p>その後は、いずれかの大学院で研究に従事するもよし、国立循環器病研究センターとの関係も強く、そちらにさらに専門性を求めて進む場合もある。</p> <p>絶えず、全国区、国際性を意識して臨床を行うことをモットーとしている。</p>															